

会 議 録

(1)実施概要

| | |
|-------------------|---|
| 会議名称 | 第7回泉大津市子ども・子育て会議 |
| 開催日時 | 平成28年2月15日（月）午前10時00分～午前12時00分 |
| 開催場所 | 泉大津市役所 3階大会議室 |
| 出席委員 (名簿順。敬称略) | 長瀬委員、久委員、川西委員、納谷委員、花重委員、佐々井委員、 鼻毛委員、古川委員、内藤委員、竹中委員、柏委員、阪上委員 (欠席) 大橋委員、坂上委員、貫野委員 全15名のうち、出席12名、欠席3名 |
| 事務局 | 今北健康福祉部長、小川教育部長、三井社会福祉事務所長、 藤原こども未来課長、東山教育総務課長、丸山生涯学習課長、藤川指導課長補佐、 竹内健康推進課長、森口障がい福祉課長、田中こども未来課長補佐、 橋本こども未来課長補佐、こども未来課 岡田・河村 |
| 会議次第 | 1. 開会 2. 案件 ①泉大津市子ども・子育て会議委員改選について ②泉大津市子ども・子育て会議の役割について ③いずみおおつ子ども未来プランの進捗状況について ④その他 3. 閉会 |
| 会議資料 | 【配付資料】 資料1 泉大津市子ども・子育て会議委員改選について 資料2 泉大津市子ども・子育て会議委員名簿 資料3 泉大津市子ども・子育て会議の役割について 資料4 いずみおおつ子ども未来プランの進捗状況について |
| 会議の公開／非公開 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開（傍聴者数1名） <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 会議録の作成方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録 <input type="checkbox"/> 全文記録 |
| その他の必要事項 | なし |

(2)審議概要(意見要旨、審議経過、決定事項等)

| | |
|----------|--|
| 事務局による進行 | <p>1. 開会 (記録省略)</p> <p>2. 案件</p> <p>①泉大津市子ども・子育て会議委員改選について</p> <p>②泉大津市子ども・子育て会議の役割について</p> <p>③いずみおおつ子ども未来プランの進捗状況について</p> <p>④その他</p> <p>※事務局より上記を説明 (記録省略)</p> |
| 会長 | ◇事務局は案件1について説明してください。 |
| 事務局 | ●事務局から案件1説明。 |
| 会長 | ◇案件1について、事務局から説明がありました。この件について、何か質疑ありますか。質疑はないようですので、案件2に移りたいと思います。事務局は案件2について説明してください。 |
| 事務局 | ●事務局から案件2説明。 |
| 会長 | ◇案件2について、事務局から説明がありました。この件について、何か質疑ありますか。質疑はないようですので、案件3に移りたいと思います。事務局は案件3について説明してください。 |
| 事務局 | ●事務局から案件3説明。 |
| 会長 | ◇案件3について、事務局から説明がありました。この件について、何か質疑ありますか。 |
| 会長 | ◇教育保育施設の需要量と提供体制の説明がありましたが、現在は提供体制の範囲内で需要量に対応できているということによろしいですか。 |
| 事務局 | ●現在の提供体制で需要と供給のバランスは取れていると考えています。 |
| 委員 | ◇誠風地区で提供体制を超えた受け入れを行っているようだが、どのように受け入れているのか教えてください。また、東陽地区でも教育保育施設数が少なく提供体制を超えた受け入れを行っている。今後、認定こども園を整備することだが、認定こども園を整備するまでは、提供体制をどのように改善していくのか。 |
| 事務局 | ●計画上は今後の人口減少も考えて、需要と供給の提供体制が取れていると考えています。提供体制を超えた受け入れは定員の弾力化により対応しています。東陽地区については一時期人口増加したが、今後は減少傾向であると考えているので、現在の施設数で様子を見ていきたい。認定こども園の整備の話が出たが、認定こども園の整備は誠風地区になります。 |
| 委員 | ◇東陽地区の提供体制の確保が必要になってくるのではないかと。 |
| 事務局 | ●現在の提供体制で需要が増え続ければ、計画を考えなおさなければならない。 |
| 副会長 | ◇まちひとしごと創生総合戦略が泉大津でも策定しているはずだが、大きな柱として子育て層への施策の充実があります。そのベースがいずみおおつ子ども未来プランになると思う。その中でも何を重点化して総合戦略の方へ持って行って、子ども子育ての戦略の中で総合戦略をどう使おうとしているのかの情報の提供を次回以降お願いしたい。特に、人口ビジョンをどのように実現していくかの中でも、子ども施策が重要に位置付けられているので、情報の提供をお願いしたい。今回の資料では速報値を出しているが、数字には表れない生の声や実態があると思いますので、次回以降はそれらを提供してもらえると議論しやすいのではないかと。認定こども園が本格的にスタートしているので、子どもや保護者の状況などで喜んでくれていることや、課題としていることなどを出してもらいたいと思います。 |
| 会長 | ◇次回の会議で子どもや保護者の声、現場の状況などを報告してください。課題などを出していただいて、会議で検討して改善していきたい。 |

委員

◇先ほど委員から話がでましたが、泉大津市ではまちひとしごと創生総合戦略が策定されています。これを読ませていただきましたが、今後の泉大津市の子育て施策と深く関わっていると思います。この中で泉大津市は現在の出生率は1.46ですが、2020年に1.6、2030年に1.8、2040年以降に2.07に高めていくとなっています。この目標値は出生率が上昇していき、転出もなくなるということを仮定しています。仮定が崩れると目標値が達成できません。これを達成するには思い切った施策が必要と思う。総合戦略の基本目標に地域ぐるみの繋がりや助け合いで結婚・出産・子育てを支援するとともに就学前教育・学校教育を充実させ若い世代の市民が魅力を感じる環境を作るとあります。また、基本的方向性として子どもを産み育てやすい街の実現に向けて出産や保育に要する費用などの経済的負担の軽減だけでなく、地域ぐるみでの助け合い繋がりによる支援を進めていくとともに就学前教育・学校教育の充実を図っていくと述べられています。ただ、少子化を食い止めるということと、保育料等の保護者負担の関わりが大きいと思う。昨年の4月から子ども・子育て支援新制度が始まりました。保育料の算定基準が変更になり保護者負担が増えました。保育を良くする会で保護者負担の実態を調査し、保護者にアンケートを取りました。162名の回答者がいて、その内46%の方が保育料の引き上げがあったと答えています。保育料が下がった方は17%います。引き上げがあった方で月額1万円以上の引き上げが35%、引き上げ額が一番高い方で3万円上がった方がいます。保育料は昨年4月と9月に改定がされて、二度上がった方もいますが、平成28年4月にも保育料の改定がされ、小幅ではありますが、値上げがされます。保育料が高いと子ども生むことに躊躇してしまうという保護者の声もある。昨年末に国が保育料の多子軽減について改善策を出しました。年収360万円未満の世帯については、兄弟の年齢に関わらず2人目は半額、3人目は無料となりました。保護者負担の軽減は国の制度の改善が必要である。国の保育料の基準が高いため国の制度を改善していく働きかけが必要である。国の制度改善を待つだけでなく、泉大津市で保育教育施設に子どもを預ける保護者が安心して子育てが出来て2人目、3人目と子どもが産めるような環境作りが必要であると思っています。つまり、泉大津市独自の施策が必要ではないか。総合戦略が示しているように、子育て世帯の経済的支援が重要になってきていると思う。他市では、具体的な施策として独自に多子世帯の保育料の支援を行っている自治体もあります。少子化に歯止めをかけ人口減少を抑制する。そのために出生率を高め他市への転出をなくすことは大変なことですが、少しでも目標に近づけていくために何が必要かということで、私の考えを述べさせていただきます。まず、産まれてくる子どもの数を増やす。そのために結婚しない若者・晩婚化を解消していくことがあげられます。結婚しない若者や晩婚化の要因は多くありますが、大きな要因としては、若い人たちの雇用が安定していないことがあると思います。次に一世帯あたりの子どもの産む人数を増やす。これは、保育料などの経済的負担が2人目、3人目を躊躇させる原因になっています。次に結婚・出産期の人他市への移住を食い止めて、他市からの転入者を増やすことだと思います。泉大津市の人口統計見ますと平成25年一年間の転入者2,449人に対し転出者2,953人で転出者が500名上回っています。転出先として一番多いのは和泉市である。泉州地域・大阪市が転出先の7割を占めていますが転出理由の分析はありません。理由が分かると転出を食い止める施策が見えてくるのではないかと。転出者の年齢は15歳から64歳が全体の9割近くになっています。安心して子どもを産み、子育てのできる、住んで良かったといえる魅力的な泉大津にするために子育て支援体制と子育て環境の実現を、どのように進めていくかということだと思う。総合戦略の中に子育て支援体制を充実させていくために子育て世帯への経済的支援の拡充とあります。具体的には示されていませんが、検討いただいているのだと思う。多子世帯への減免や延長保育料の減額などを実現いただければありがたいと思います。泉

大津市の延長保育料は近隣市と比べてもかなり高いため、パートの保護者にかなりの負担になっている。是非支援いただきたい。また、待機児童解消に向けた定員の拡大・認定こども園の整備・教育保育施設の充実などが示されていますが、これらの施策は公の責任で進めていく事の意義は極めて大きいと思っています。民間の施設においても教育保育の充実が図れるように市の助成が求められていると思っています。学童保育については泉大津市では、全小学校で設置し希望する全ての子どもを受け入れています。保育時間も今年度より改善されるなど、他市に自慢できるほど充実してきています。最後に総合戦略に記載されていない点について述べさせていただきたい。一番多い転出先が和泉市である。和泉市は学校給食があります。転出の理由として和泉市は学校給食からという方を数名知っています。大阪市でも実施を始めました。堺市でも実施に向け検討に入ったと聞いています。入学した小学生の給食開始が他市よりも遅いということや中学校給食がないということや理由に、環境が整った周辺の市へ転出していくということや、どのように食い止めたらいいのか真剣に考えていかないと周りの市から取り残されていくのではと思っています。次に、障がいを持った子どもが大切にされて、発達が保障される泉大津市であることを戦略の中で打ち出させていただきたいと思っています。保育所・幼稚園・学校などで障がいをもった子どもが受け入れられ、障がい児の交流の場としての親子教室など取り組みが進められていますが、障がいをもつ家庭への支援を一層充実させて、障がいをもつ家庭が安心して暮らせる街づくりを進めていく事が大切だと思っています。泉大津市の未来に関わる少子化に歯止めをかけていくために子育て支援について私の意見を述べさせていただきました。ありがとうございました。

副会長

◇私は、泉州では岸和田市・貝塚市・阪南市で総合戦略策定をお手伝いしました。総合戦略とは何かと整理した方が良いでしょう。一番中心の計画は総合計画であり、それを受けていずみおおつ子ども未来プランがある。子ども施策全般については、総合計画やいずみおおつ子ども未来プランに位置付けている。同じような内容を総合戦略に作ってしまうと総合戦略の意味がなくなってしまう。総合戦略とは泉大津市をアピールするようなものでないといけない。泉大津市の特徴をだしたものが必要と思っています。独自のサービスや補助金の話がでたが、貝塚市では総合戦略で独自のサービスや補助金は止めようとなりました。なぜかと言うと、サービスや補助金を目玉にすると、サービスや補助金の多少で判断されてしまう。転入して来ても、上回るサービスや補助金があると他市に行ってしまうのではないかとということで、貝塚市では総合戦略にはのせないという判断をしました。では、どうするのかということと本当に泉大津市を愛し、ここで一生過ごしたいという人と手を組もうということ。30～40代の子育て層にも、そういう方はいます。阪南市は特徴がないと言われています。本当にこういう阪南市でいいのかという30～40代の方がいますので、そういう人たちと手を組んで、もっと阪南市を魅力的にするためにアピールしていこうとして柱として位置づけさせていただきました。具体的に動き出しても、その方たちと手を組んで面白い戦略を今後も一緒に考えながら打っていこうじゃないかという話になっています。具体的にはどういうことかということ。摂津市の30代の方がおっしゃってましたが、子どもに対する支援はたくさんある。しかし、30～40代の女性達が欲しいのは私たちに対する支援である。私たちがイキイキした生活を送りたいが、子どもに対する施策ばかりしかない。摂津市の場合は、そのようなことから自分たちがイキイキ暮らせるようなものをどんどん作り出してきたことがある。それに対して市役所が応援して一緒にしようじゃないかということで、この2、3年で戦略を組み立てています。阪南市も同じようにまずは、お父さんやお母さんがイキイキと暮らせるようになってくると、自分の人生が充実することによって、子どもをもっと増やそうじゃないかと思ってくれるんじゃないか、さらにはその動きが阪南市の魅力づくりを支えてくれるんじゃないか。こういうシナ

| | |
|----------|--|
| | <p>リオを作らせていただきました。何を大きな柱にするのか絞り込んでこそ、総合戦略の意味があるんじゃないかと思います。実は岸和田市でも和泉市に引っ越す方が多いという話になりました。それを数でおっかけてもダメで、どういう方がどういう思いで和泉に引っ越されたかをマーケティングして分析しています。数値ではない追跡です。その内、何割かは、いぶきの小学校に行きたいという声が聞こえてきた。いぶきの小学校は小中一貫校として、今後充実させていきたいと考えている。また、ニュータウンなので魅力的な住環境もある。魅力的なニュータウンに引っ越して、なおかつ小中一貫校で教育を受けることができることに魅力を感じて転出する方がいるということが見えてきました。では、岸和田市では同じ小中一貫校で勝負するのか、他の魅力付けで転出を止めるのかという戦略を、考えていくということになりました。では、泉大津市はどういうところにこだわっていくのか、何をアピールしていくのかこれからも一緒に考えさせていただきたいと思っています。あれもこれも手を出すのではなく、ここから手を組んでいく事が重要ではないかと思っています。摂津市では、私もお手伝いしている「摂津まるごと大学」として生涯学習の講座を自分たちの手で立ち上げることになりました。これは非常に魅力的なのはコミュニティビジネスとして、自分たちの仕事を自分たちで作れるようなスキルを身につけるための講座を開いていこう。子育て層の方が、自分がしたいし、スキルを身につけないといけないよねと今年度一緒に組み立てをさせていただいているところです。そこに集まっている方は30～40代で8割方が女性である。その方たちの思いには共通したものがある。自分が生まれ育った摂津市を魅力的にしたい。結婚や就職を契機に一度市外に出たが、もう一度摂津市に帰ってきて、ここで一生過ごしたいと覚悟をされた方達が、自分たちの手で何もないと言われている摂津市を変えていきたいということで立ち上がってくださっています。もう一つの層は結婚を契機にご主人が摂津市出身だったので摂津市にいられた方です。ご主人に聞いても摂津市は何もないと言うが、自分はここに引っ越してきた限り、自分の子どもに摂津市は何もないとは言わせたくないという思いが、この摂津市をより魅力的にしようというところにきています。人数は20名弱ですが、本当に摂津市を愛し、自分たちで摂津市を魅力的にしたいと言う方が立ち上がり始めていますので、その方達を応援して、さらにその方達の仲間を巻き込みながら徐々に輪を広げていきたいという戦略を今、摂津市と阪南市と一緒に始めさせていただいていますので、泉大津市でも同じような世代はいると思いますので、一緒に盛り上げていけるようなそんな体制づくりをさせていただきたいし、摂津市のように子ども施策ではなく親向けの施策をもっと充実をしていく必要があるんじゃないかと思っています。</p> |
| 事務局 | <p>●保育料の件で補足したい。泉大津市で保育料の改定を行ったのではなく今年度は新制度に合わせて、所得税による算定から市民税による算定に変更になりました。これにより保育料が変更になったかたがいます。市民税は6月に決定するため、税額が変更になった方で、保育料が9月から変更になる場合があります。平成28年4月は保育料の改定をします。10年以上保育料を変更していなかったため、経費的な面からも改定をさせていただきます。改定の幅は300円から2700円でご理解をいただいています。</p> |
| 会長 委員 | <p>◇ありがとうございます。他の方は意見ございますか。</p> <p>◇新しく始めた子育て支援について、報告させていただきます。</p> <p>男性のために育児を楽しんでもらおうと、男性の為の育児講座「パパ講座」を平成27年10月から公立の保育所・幼稚園・認定こども園で開催しています。内容は妊婦の疑似体験・ベビー人形を使っでの沐浴体験・おむつ替えや着替えの体験・離乳食の展示などです。妊娠中の奥さんをもつ男性や小さい子どものいるお父さんが対象になります。わらべ歌や絵本の読み聞かせで親子の触れ合いも体験してもらっています。参加者は最初は緊張しますが、スタッフに男性職員も加えることで、お父さんたちも構えることなく参加してく</p> |

| | |
|----------|--|
| 会長 委員 | <p>ださり、いろいろ体験することで満足して帰っていただいています。お母さんに対する支援はあるが、お父さんに対する支援は少ないので、「パパ講座」は良いものだと思っています。会場も保育所・幼稚園・認定こども園で行っているので、施設見学も一緒に行っている。今後も是非継続していきたい。平成27年度は第4土曜日の開催で、2月は浜幼稚園・3月は条東幼稚園で実施します。平成28年度は保健センターの両親教室とコラボして土曜日だけでなく、日曜日にも開催する予定になっています。</p> |
| 委員 | <p>◇子育て支援が広がっていく中で、子育てしやすい街づくりが進んでいくと思います。</p> <p>◇人口に関する事で意見を言いたい。出生率を上げることが大事である。国は希望出生率を10年間で1.8を目指しているらしいが、日本がバランスよく進んでいくには2.06必要と言われている。いずみおおつ子ども未来プランに記載の0～2歳の人口も減少している。0～2歳の人口が確か箕面市では増えていたはずだ。全国的にも珍しいと思う。人口減少に対して各市町村の施策が大事である。国の施策を待つのではなく、市町村が国の施策を先取りすることも大事ではないか。この2年間で何か施策をするのかしないのかで5年後、10年後大きな違いになるのではないかと考えています。子どもへの投資を率先してやらないといけない時期にきていると思っている。</p> |
| 委員 | <p>◇人口について、学校現場で感じることを述べたい。泉大津市では工場がマンションや分譲住宅になっていっている。マンションが多く増えた時期に人口が増えたが、その世代が学校を卒業して、人口が減少していると感じている。学校のクラス数も6年生が4クラスで1年生が2クラスで半分以下に減ってきている状況である。現在、転出転入が多い時期であるが、小学校の在学中に転出する件数は多くないように感じる。就学前に転出しているケースもあると思う。今後は何歳で転出が多いのかなどデータも教えていただきたい。転入者も年に数件はある。転入してくる方は、泉大津市に何か魅力を感じて来ていると思う。泉大津市から転出した教え子達の話を知ると、泉大津市は魅力的だし懐かしいと言っている。教え子で、泉大津市で結婚して子育てしている人も多い。転出した人たちも、泉大津市は良かったという声も聞く。泉大津市には地域の文化や学校など魅力があると思うので、それらの魅力を発掘して魅力的な泉大津市になれば良いと思う。</p> |
| 委員 | <p>◇私は泉大津市で生まれ育って、泉大津市が大好きであり泉大津市の良さは感じている。ただ、泉大津市では駅より西側では買い物難民がいます。府営住宅等では障がい者が住めるようになっているが、買い物に行くところがない。車がないと泉大津市の西側では暮らしにくい。以前はスーパーマーケットや商店街もあったが潰れてしまった。泉大津市で暮らしたい子育てしたいと思うが買い物に行くところがないという現実がある。住みよい街にするには買い物する場所も不可欠である。</p> <p>また、障がい者についてですが、現在は放課後等デイサービスという事業がある。これは放課後に子どもを預かってもらうサービスですが、多くの事業所があるが、保護者は一番長い時間預かってくれる事業所を選ぶ。しかし、子どもが遅くまで帰ってこなければ、いつ子どもと向き合うのかと思う。あまりにもサービスが充実しすぎること、親と子の時間が少なくなる。現在、サービスは多様化していることも知っていただきたい。障がい者が住みよい街とアピールすることの怖さもある。何でもやってもらうことが当たり前になってきている。サービスが充実しすぎること、親の考えがズレていると感じることもある。泉大津市の良さをアピールするためにだんじりなど地域の文化を発掘するなど、頑張らないといけないと感じています。</p> <p>◇先ほどの、ご説明いただいたパパ講座について聞きたい。私は、今年度から和泉市で認定こども園をさせていただいている。父親が送り迎えにくることも多く、平日の行事などでは、参加は母親が中心かと思っていたが、父親も多く参加してくれて嬉しく思っている。パパ講座はアナウンスや募集はどのような形で行っているのか、人数的には増えていくの</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>かなど教えていただきたい。</p> <p>●パパ講座は広報でお知らせしている。また、開催する園でポスター掲示や声かけを行っている。保健センターの事業と関連させて父親の育児参加を推進している。母子手帳の発行時や子ども未来課に来られたときにも周知している。土曜日に開催しているが、土曜日は仕事で参加できないという声もあり来年度は日曜日の開催も予定しています。父親の育児参加が母親の負担軽減に繋がるのでパパ講座は喜ばれていると感じている。</p> <p>この講座は、少子化対策として父親が育児に参加することで、母親が子どもを産もうと思ってもらうために始めました。ただ、父親が自発的に参加したケースは少なく、母親が父親に参加を促して参加されたケースが多い。1回あたり参加は5組ほどだが、個別の相談を受けたり、父親同士が交流されたりしています。パパ講座の目的に対していろいろな効果があると思っています。</p> |
| 委員 | <p>◇女性の育児負担を解消していくこと必要である。男性が育児参加・子育ての楽しさを実感できる機会を作っていく事は大切なことである。</p> |
| 事務局 | <p>●先ほど、中学校給食の話ができました。他市もさまざまな特徴をだしています。泉大津市については、ハード面では近隣市に先駆けて中学校・小学校・就学前施設の空調設備を整備しました。中学校給食に関しては、泉大津市では非常に大きな中学校施設を抱えている中で施設整備が難しいということで見送っていました。その代わりとして、スクールランチという栄養価を考えたランチを安価に提供できるように補助して実施しています。保護者の方にも試食会などを行い利用を図っていきたくと考えている。また、子育てをするときにしっかりと地に足をつけて、家庭と地域と学校と一緒に取り組んでいけるようなものをつくっていかないといけないということで、教育部では「学びを繋ぐ学びを還元する」を大きなテーマに教育振興計画を本年度策定しています。新しい時代のニーズを捉え家庭・地域の方と広めていきたい。例えば、ICT環境整備なども言われていますが、タブレットの導入も来年度図っていく方針です。時代の求めるニーズを施設・備品の整備だけでなく、教育内容の充実ということで家庭・地域と連携して取り組んでまいりたいと考えています。</p> |
| 会長 | <p>◇他に意見はありますか。</p> |
| 委員 | <p>◇二点伺いたい。子ども子育ての施策の中で公園について記載がありましたが、平成27年度に公園や子どもの遊び場で何か変わったことがあれば教えていただきたい。次に、学童保育について、就労時間等によって長期休業中や短縮授業中には利用できないということ聞くことがあるが、来年度、学童保育について改善することはあるか教えていただきたい。</p> |
| 事務局 | <p>●一点目について、担当課が不在なので、改めて回答いたします。二点目の学童保育についてですが、27年度から新制度がスタートして当初から1.2倍の児童数の受け入れを行っている。現時点での登録人数は700名を超えています。委員がおっしゃられたニーズは把握していますが、28年度の児童数も50名増加が見込まれているため、現状の児童数の受け入れを踏まえた上で、今後の検討課題として対応してまいりたいと考えています。</p> |
| 会長 | <p>◇本日は、いずみおおつ子ども未来プランから始まり、大きな戦略や、それを支える子育て支援や教育など、多岐に渡って意見をいただきました。様々なご意見ありがとうございました。いったん終結させていただきます。</p> <p>事務局から案件4の「その他」について何かありますか。</p> |
| 事務局 | <p>●ありません。</p> |
| 会長 | <p>◇次第については終了しました。本日の会議はこれにて閉会いたします。ありがとうございました。</p> |
| 事務局 | <p>●次回の子ども・子育て会議は平成28年度に開催させていただきたく存じます。改めて、</p> |

日程調整の連絡をさせていただきますので、よろしくお願ひします。これもちまして、第7回泉大津市子ども・子育て会議を終了いたします。ありがとうございました。

以上